

第1学年 総合的な学習の時間 学習指導案

松山市立旭中学校

教諭 荒井慎也

- 1 **単元名** 100年後の旭中校区をより良くするために
～旭中校区での逃げ遅れを0にするために～

2 単元の目標

- ・ 現在、地域にどのような災害の危険性があるか、地域にどのような備えがあるかを知る。また、防災・減災するためにどのような手段や備えがあるか知る。
(知識・技能)
- ・ 地域の現状から、課題や問題点を洗い出し、正しい知識を基に、対策や改善方法を考える。そして、その実現のために、校外の人たちと協力しながら行動する。そのうえで、さらに検証を行う。
(思考・判断・表現)
- ・ 旭中校区での逃げ遅れ0実現のために、主体的に活動する。
(主体的に学習に取り組む態度)

3 単元について

(1) 教材観

100年後の自分たちが住んでいる中学校区を予想すると、よい未来予想だけでなく、問題点や課題もある。松山市内では少し山側にある地域で、風水害や南海トラフ地震の危険性もある。地域には高齢者も多く、迅速な避難の難しい住民も多い。そういった中で、まずは自分自身や家族の安全について考える。更に、地域での逃げ遅れを0にするために、私たちができないかを考えて行動する。このことが、この地域の安全の向上につながり、100年後も住み続けられる地域に一步でも近づけられる。生徒がその実現にむけて主体的に活動できる教材である。

(2) 生徒観

本グループの生徒は、15名で、学習に対して意欲的に取り組む生徒が多く、自分の考えを発表したり、分からないことを質問したりできる生徒が多い。しかし、中には自分の意見をなかなか表現できない生徒もいる。1学期に世界の状況や国境なき医師団の活動、世界の子どもの様子やSDGsについて学んだ上で、「110年後の旭中校区をより良くするために」という課題を学年全体で立て、その課題解決のために①自然・環境班、②文化・観光班、③産業班、④防災・減災班のグループに分かれた。15人は防災・減災に興味を持って調べたいという生徒がそろっており、本活動にも主体的に取り組んでいる。男女の仲もよく、協力して活動することもできる。

(3) 指導観

本単元の指導に当たって、2つのことを大切にしたいと考えている。一つ目は、情報

や活動内容の正しさである。今回扱う内容は、「災害が起こったときにどうするか」という命に係わる内容であり、中学生の活動とはいえ、間違いは許されないものである。そのため、情報の正確性を担保するために、松山市の防災・危機管理課の指導・助言を受けたり、地域の消防団の人に協力を得たりしたい。二つ目は、思いついた改善点をより多く実践していくことである。もちろん、適当に活動するわけではないが、考えているだけでは現状は何も変わらないのも事実である。南海トラフ地震は、いつ起こるかわからない差し迫った危機であり、現状地域で大きな被害が出た場合に、十分な備えができていないとは言えない。そのため、少しでも減災するために、できることを行動にうつさせたい。

(4) ESD との関連

・本学習で働かせる ESD の視点 (見方・考え方)

○相互性・・・ まずは、自分自身の命を守る方法を考える。それを家族や友達、そして地域全体に広げていく活動をする中で、周囲の人たちとのつながりを考える。また、将来にわたってこの活動を継続することで地域が災害に強い街になり、現在だけでなく未来の地域の安全・安心にもつながる活動である。

○責任性・・・ 逃げ遅れ0の実現を課題にしているため、間違いや失敗は人の命に係わる重大なことにつながる。そのため、正しい内容や手段かどうかを吟味したり、他の人に正確に物事を伝えたりしなければならない。

○連携性・・・ いくら生徒が意欲的に活動しても、地域を変えることは難しい。地域の人や市役所や支所の人、小学生など様々な年代の人たちを巻き込み活動しないと、地域は変わらないし、この活動が持続可能な活動になっていかない。

・この学習を通して育てたい ESD の資質・能力

○多面的・総合的に考える力 (Systems Thinking)

災害は、どのような規模でどの場所にいつ起こるかわからない。その時、どのような問題が起きるか予想することはできるが、正確には分らない。そして、その状況は時間とともに変化していく。そのようなことに対応しようとするので、様々なことを予測し、その中で起こりうる可能性を考えて、できる準備や対策を考え、より有効だと考えられる内容を優先して行う必要がある。

○他者と協力する態度

防災・減災は一人でできることは限られている。地域が一丸となって取り組むことでできることは増えてくる。そのため、自分のグループや班の人と協力するのはもちろん、地域の大人や小学生、役場の人や外部の専門家など様々な人と協力して活動していく必要がある。また、そうしないと現状は変わらない。

・この学習を通して育てたい ESD の価値観

○世代間の公正

老若男女問わず、地域の人たちが避難できるようにすることはもちろん、現在の

住人だけでなく、未来の住人も災害に強い地域にしていかなければならない。また、この活動が継続するために、中学生に引き継ぐだけでなく、未来の中学生である小学生にも関わっていく。

・達成が期待される SDGs

- 1 1 住み続けられるまちづくりを
- (1 3 気象変動に具体的な対策を)

4 単元の評価規準

ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
① 地域の災害の危険予測や、防災減災の備えなどを調べ、現状を知る。 ② 防災・減災に対する対策や備えの方法を知る。 ③ 調べたことを分かりやすく表現したり、まとめたりする。	① 地域の現状を基に、問題点や課題を分析し、その対策を考える。 ② 実際に災害が起こった状況を想像し、その時に必要なものや有効な対策を考える。 ③ 地域の人たちの防災・減災に対する意識をどのように高め、行動に移してもらえるか考える。	① 現状の把握や、防災減災の対策、災害時に起こりうるなどを主体的に調べたり考えたりする。 ② 考えた対策の実現のために意欲的に活動できている。 ③ 活動をした後に、リフレクションし、さらにより良い活動になるよう模索している。

5 単元の指導計画（全17時間）

次	学習活動	学習への支援	評価（△） 備考（・）
1.2	○各自課題を考える。 ・その課題によってグループを作る。	・市のハザードマップや防災に関するHPなどの情報を提示しておく。	△ア①
3.4	○課題を基に、各班で探求方法や活動計画を立てる。	・調べて終わりではなく、少しでも状況を良くしていく活動にすることを伝える。	△イ①
5	○ハザードマップにある危険箇所を実際に見に行く。	・危険箇所の規模の大きさや斜度の急なところを体感する。現地に行くことでわかる課題に気付けるように個々に声掛けをする。	△ウ①
6	○土砂災害マイタイムラ	・ハザードマップから、自宅の危険度	△ア②

	インをタブレット上で作成する。	や避難所までの経路などを確認する。	
7	○避難所の仕切りの設営を行う。	・備蓄の量を知り、十分な量があるか検討する。足りない場合は、公助で補うか自助で補うかを考えさせる。	△イ②
8	○市のマイタイムラインをWeb上で作成する。	・Web上でのマイタイムラインの便利さに気付かせる。	△ア②
9	○各班の課題探求をする。 ○マイタイムライン作成を学年全体で行うときの段取りを考える。	・学年全体に自分たちの活動を広げる準備を行う。 ・どのように伝えと分かりやすいか、準備をさせる。	△ア③
10	○避難所の問題点を洗い出し、解決方法を考える。	・問題解決のために、必要であれば外部への団体につないでいく。	△ウ②
11	○学年でマイタイムラインをWeb上で作成する。	・上手いかわからなくても、生徒自身で頑張らせる。その上で、次の活動につながるようにする。	△ウ①
12	○地域の方へ発信する方法を考える。	・5で感じたことなどをつなげていき、地域に目を向けられるようにする。	△イ③
13	○各グループの課題解決について各グループで進める。	・並行していくつかの活動をしているので、それぞれが責任を持ってやれるように見守り、サポートする。	△ウ①
14	○地域の方への説明の段取りを考える。	・どのようにしたらよく伝わるか、相手目線で考えるヒントを出す。	△ア③
※	○地域に出て、防災教室(マイタイムライン普及)を行う。	・どうしても難しそうなき以外は、生徒自身で説明等を頑張らせる。	△ウ②
15	○実際行ってみての成果と課題をまとめる。発表の段取りを行う。	・今までの活動や成果・課題をスライドなどでまとめ、全員で発表できるように準備する。	△ア③
16	○学年で発表会を行い、成果と課題を発表する。	・やってきたことと、今後の展望を学年の生徒に伝え、来年度につなげる。	△ウ③
17	○成果と課題等の引継ぎ内容をまとめる。	・次の活動につながるように、成果、課題、展望などをしっかりまとめる。	△ウ③